

2020年7月14日

一般市民用ヘルメット型マスクの開発 -ロックダウンを不要化する新しい社会基盤の提案-

外部からのウイルスの侵入を完全に遮断する、(また、ウイルスの排出もほぼ完全に遮断する)軽量のフルフェイスヘルメット型のマスクを開発した。本マスクは、ヘルメット内の圧力と流量の精密制御により、①ウイルスの完全遮断、②軽量の本体、③楽な呼吸、④安価な製造コスト、の4項目を高い次元で同時に実現するフルフェイス型マスクである。本マスクの装着者は、抗体保有者と同様に、自身がウイルスに感染することもなければ、他者にウイルスを感染させることもない。本マスクを一般市民が常備し、ウイルス感染拡大の危険性が出た時に、外出時に一斉に装着することにより、感染を確実に収束に向かわせることが可能となる。本マスクを大部分の国民が保有していれば、ロックダウン、外出自粛、営業自粛などは、全く不要になる。本マスク、及び、その周辺システム(航空機、電車、バス、映画館、劇場などにおけるサービス給排気ポートの提供、など)は、コロナ時代における、必要不可欠な社会基盤になると考えている。



マスクとバックパック(ポンプ、フィルタ、各種センサー、バッテリーなどを収納)



デモンストレーションの様子

2020年7月7日にプレス発表を行い、数々のメディアに取り上げられました。インターネット上で検索いただくと、一部記事をご覧することが可能です。

- ・7月12日 テレビ朝日「サンデーステーション」
- ・7月10日 読売新聞
- ・7月8日 朝日新聞、上毛新聞、毎日新聞
- ・7月7日 NHK総合、群馬テレビ

【本件に関するお問合せ先】

群馬大学 大学院理工学府 教授 藤井雄作 TEL : 0277-30-1756